法人名	独立行政法人緑資源機構（平成15年10月1日設立）＜非特定＞ （理事長：伴 次雄）
目的	農林業の生産条件、森林資源及び農業資源の状況等からみてこれらの資源の保全及び利用を図ることが必要と認められる地域において、豊富な森林資源を開発するために必要な林道の開設、改良等の事業を行うとともに、水源をかん養するために必要な森林の造成に係る事業及びこれと一体として農用地、土地改良施設等を整備する事業等を行い、もって農林業の振興と森林及び農用地の有する公益的機能の維持増進に資することを目的とする。
主要業務	1 農林水産大臣の定める基本計画に基づき、林道の開設又は改良の事業、及びその林道についての災害復旧事業を施行し、合わせて維持、修繕その他の管理を行うこと。2 水源をかん養するため急速かつ計画的に森林の造成を行う必要がある地域内の土地につき、森林の造成に係る事業を行うこと。3 2に該当する地域のうち政令で定める特定地域の区域内において、当該地域における農林業の振興と森林及び農用地の有する公益的機能の維持増進を図る見地から相当であると認められる事業（特定地域整備事業）を行うこと。
中期目標期間	4年6か月間
委員会名	農林水産省独立行政法人評価委員会（委員長：松本 聡）
分科会名	林野分科会（分科会長：木平 勇吉）
農林水産省独立行政法人評価委員会の評価基準（手法）の概要	<p>項目別評価</p> <p>1 原則中期計画の中項目を評価単位とし、aからcの3段階で評価を行うが、大項目の「予算等」、「短期借入金の限度額」「重要な財産の譲渡等」及び「剰余金の使途」については、別途評価単位及び評定区分を設定して評価を行う。また、大項目の「国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」のうち、「水源林造成事業」等5中項目については、中項目より下の項目を評価単位として評価を行う。</p> <p>a: 中期計画に対して概ね順調に推移している（達成割合が90%以上） b: 中期計画に対して一部遅れが見られるものの、中期目標期間において達成が可能な範囲にある（達成割合が50%以上90%未満） c: 中期計画に対して顕著な遅れが見られる（達成割合が50%未満） ただし、a 評定の小項目について、達成率等により a+ 評定とすることができる。また、c 評定とした場合、必要に応じ d 評定とすることができる。</p> <p>2 大項目の評価に当たっては、各大項目における評価単位の達成割合を算出し、次のような3段階で評価を行う。達成割合については、a 評価を受けた評価単位を1、b 評価を受けた評価単位を 0.5 とし、別途設定したウェイトをそれぞれ乗じて合算した値を、ウェイトの合計数で除して算出する。</p>

農林水産省独立行政法人評価委員会の評価基準（手法）の概要	<p>A: 中期計画に対しておおむね順調に推移している（達成割合が90%以上） B: 中期計画に対して一部遅れが見られるものの、中期目標期間において達成が可能な範囲にある（達成割合50%以上90%未満） C: 中期計画に対して顕著な遅れが見られる（達成割合が50%未満） ただし、A 評定の中項目について、達成率等により A+ 評定とすることができる。また、C 評定とした場合、必要に応じ D 評定とすることができる。</p> <p>総合評価</p> <p>各大項目の評価結果を、項目別評価2と同様の方法で達成割合を算出し、評価を行う。</p>																																					
農林水産省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要	<p>項目別評価</p> <p>1 業務運営の効率化＜平成15年度:A、16年度:A、17年度:A＞ 「業務運営の効率化による経費の抑制」、「執行体制の整備」等の3つの中項目で評価を実施</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>平成15</td> <td>16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果(項目数)</td> <td>a:3</td> <td>a:3</td> <td>a:3</td> </tr> </table> <p>2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上＜平成15年度:A、16年度:A、17年度:A＞ 中項目6項目のうち、「情報提供の充実」については中項目で評価を行い、「水源林造成事業」等5中項目については、14の小項目の評価結果を集約して中項目の評価を実施</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>平成15</td> <td>16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価結果(項目数)</td> <td>中項目</td> <td>a:6</td> <td>a+:1, a:5</td> <td>a:6</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>a:14</td> <td>a+:2, a:12</td> <td>a+:2, a:12</td> </tr> </table> <p>3 予算、収支計画及び資金計画＜平成15年度:A、16年度:A、17年度:A＞ 「負担金の徴収を確実に実施するための取り組み」等4つの特定評価単位の評価を実施</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>平成15</td> <td>16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果(項目数)</td> <td>a:4</td> <td>a:4</td> <td>a:4</td> </tr> </table> <p>4 短期借入金の限度額＜平成15年度:－、16年度:－、17年度:－＞ 5 重要な財産の譲渡等＜平成15年度:－、16年度:－、17年度:－＞ 6 剰余金の使途＜平成15年度:－、16年度:－、17年度:－＞ 7 その他業務運営に関する事項＜平成15年度:A、16年度:A、17年度:A＞ 中項目「人事に関する計画」で評価を実施</p> <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>平成15</td> <td>16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果(項目数)</td> <td>a:1</td> <td>a:1</td> <td>a:1</td> </tr> </table>	年度	平成15	16	17	評価結果(項目数)	a:3	a:3	a:3	年度	平成15	16	17	評価結果(項目数)	中項目	a:6	a+:1, a:5	a:6	小項目	a:14	a+:2, a:12	a+:2, a:12	年度	平成15	16	17	評価結果(項目数)	a:4	a:4	a:4	年度	平成15	16	17	評価結果(項目数)	a:1	a:1	a:1
年度	平成15	16	17																																			
評価結果(項目数)	a:3	a:3	a:3																																			
年度	平成15	16	17																																			
評価結果(項目数)	中項目	a:6	a+:1, a:5	a:6																																		
	小項目	a:14	a+:2, a:12	a+:2, a:12																																		
年度	平成15	16	17																																			
評価結果(項目数)	a:4	a:4	a:4																																			
年度	平成15	16	17																																			
評価結果(項目数)	a:1	a:1	a:1																																			

農林水産省
独立行政法
人評価委員
会の17年度
業務実績評
価結果の概
要

《参考》定量的指標の実績(平成17年度)(例)

指 標	中期計画	年度計画	実 績
事業費の削減	目標期間最終年度に14年度比10%削減	14年度予算比12.6%削減	14年度予算比12.7%削減
緑資源幹線林道効果の早期発現	目標期間中に10区間完成	3区間	3区間
農用地総合整備事業の計画的な実施	目標期間中に7区域完成	1区域	1区域

総合評価

○ 評価結果

年 度	平成15	16	17
評価結果	A	A	A

○ 評価の理由、特記事項等

(総合評価の評定)

独立行政法人評価委員会林野分科会が独立行政法人緑資源機構の平成17年度の業務実績について、「独立行政法人緑資源機構の業務の実績に関する評価基準」により、中期目標及び同目標に基づき機構が作成した中期計画の達成度合を客観的に判断するため評価単位を設定し、取り組むべき課題の達成状況を評価し、その結果を基本として総合評価を行ったところ、中期計画に対して概ね順調に推移していると判断されたことから、(A)評定とした。

なお、評価は、設定した評価単位ごとに、機構が行った自己評価結果について提出及び説明を受け、当該資料の調査・分析を基本として行った。

(業務運営に対する総括的な意見)

- ・ 中期計画等に沿って事業が進められ、よく工夫しながら効率的な業務運営にも意欲的に取り組んでいる。
- ・ 量的な目標は計画どおりあるいは計画以上に達成されているとともに、質的な内容も充実してきている。
- ・ 技術研究・改善が現地で生きてきていることが感じられる。大きな林業事業体として日本の森林管理技術のリーダーシップをとってほしい。
- ・ 森林が持つ機能を多面的に評価し、事業情報だけではなく山や森の情報もあわせて国民に提供したら良いと考える。
- ・ 今後もさらに努力を続け、更なる事業内容の充実に努めるとともに、その成果を発信して機構のPRに努められたい。

政策評価・
独立行政法
人評価委員
会の意見

以下の点を踏まえつつ、農林水産省独立行政法人評価委員会の評価結果が活用され、中期計画等に基づく業務の質の向上及び効率化が、引き続き効果的に推進されるよう図っていく必要がある。

- ・ 水源林造成事業については、事業実施の透明性を高めるとともに国民に対する説明責任を果たす観点から、事業実施の重点化に関し、植栽に係る重点箇所の選定基準、地元の要望等を踏まえた実際の選定状況、植栽に至るまでのプロセスを業務実績報告書等で明らかにさせた上で、情報公開の充実を促すような評価を行うべきである。
- ・ 特定中山間保全整備事業については、円滑な事業運営に資する観点から、事業着工以降の受益農林家数や地域の農林業の動向、整備された施設等の利用状況、事業に対する関係機関及び受益者の意見・要望と機構の対応状況を業務実績報告書等で明らかにさせた上で、今後の事業運営、新規事業の採択に反映させることができるような評価を行うべきである。
- ・ 地方出先機関ごとの評価については、業務運営の効率化と中期目標期間終了時における見直し検討に資する観点から、各地方出先機関の業務実績及び実績のバラツキの原因等を業務実績報告書等で明らかにさせた上で、その設置の必要性も含め今後の在り方が明確になるような視点から評価を行うべきである。
- ・ 随意契約により実施している業務については、国における取組(「公共調達適正化について」(平成18年8月25日付け財計第2017号。財務大臣から各省各庁の長あて。))等を踏まえ、一般競争入札の範囲の拡大、契約の見直し、契約に係る情報公開等についての取組状況等についての評価を行うべきである。

また、入札等に関し業務の適正な執行上問題のある事例が発生した場合には、業務の適正化を図る観点から、その発生原因と発生防止のための取組状況を明らかにさせた上で、チェック機能の強化等再発防止対策に反映できるような評価を行うべきである。

ホームページ

法 人: <http://www.green.go.jp>
 評価結果:
http://www.maff.go.jp/www/council/council_cont/kanbou/dokuhou/17/index.html